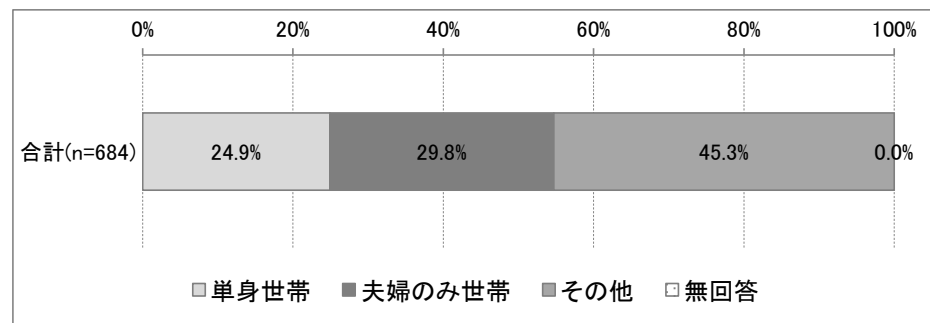


知多北部広域連合
在宅介護実態調査報告書
結果概要

令和2年8月

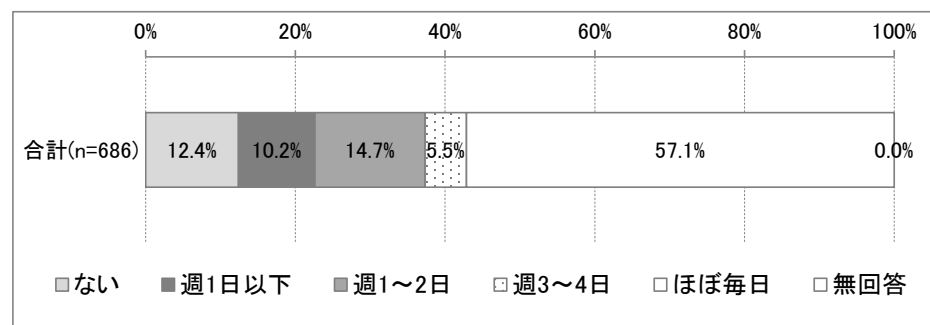
アンケート対象者の個人属性

世帯割合



□ アンケート対象者の世帯割合は、「単身世帯」（24.9%）、「夫婦のみ世帯」（29.8%）、「その他」（45.3%）となっています。

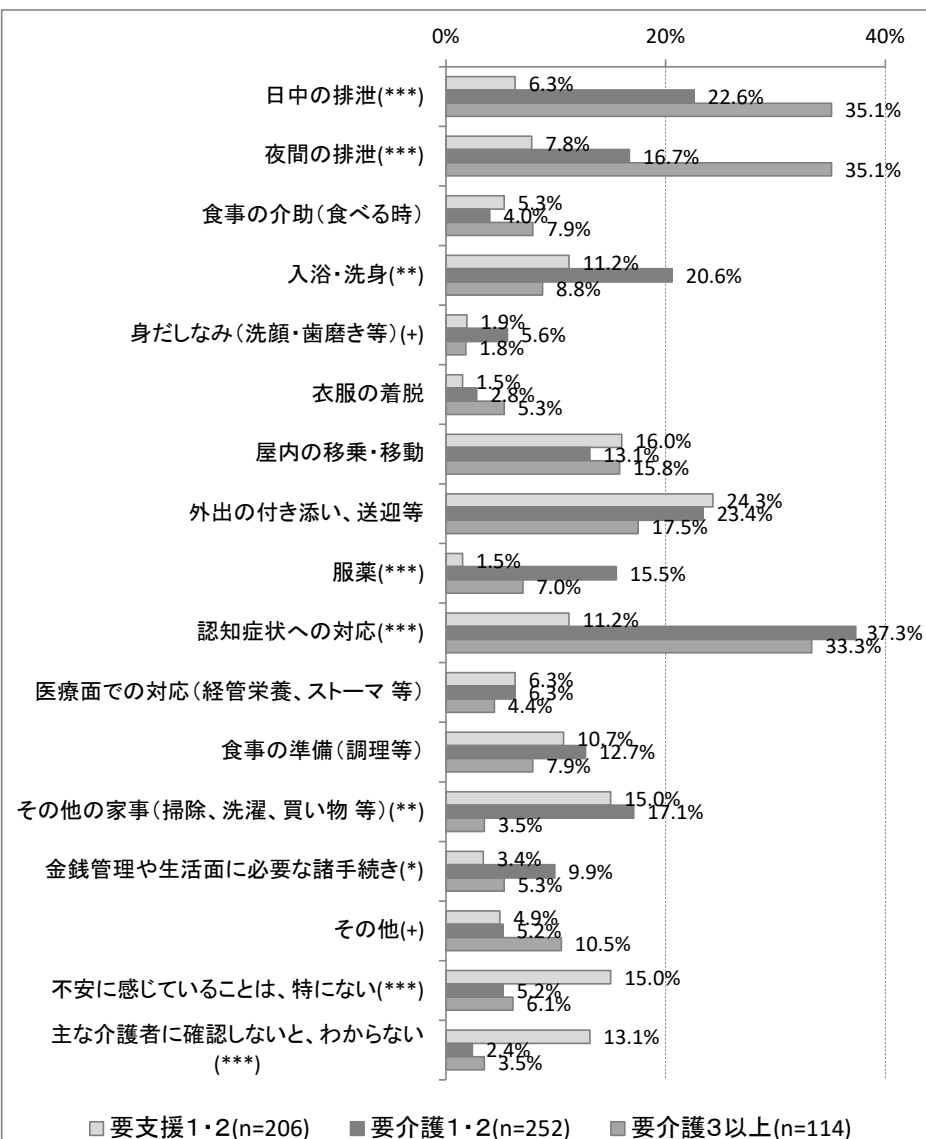
家族等による介護の頻度



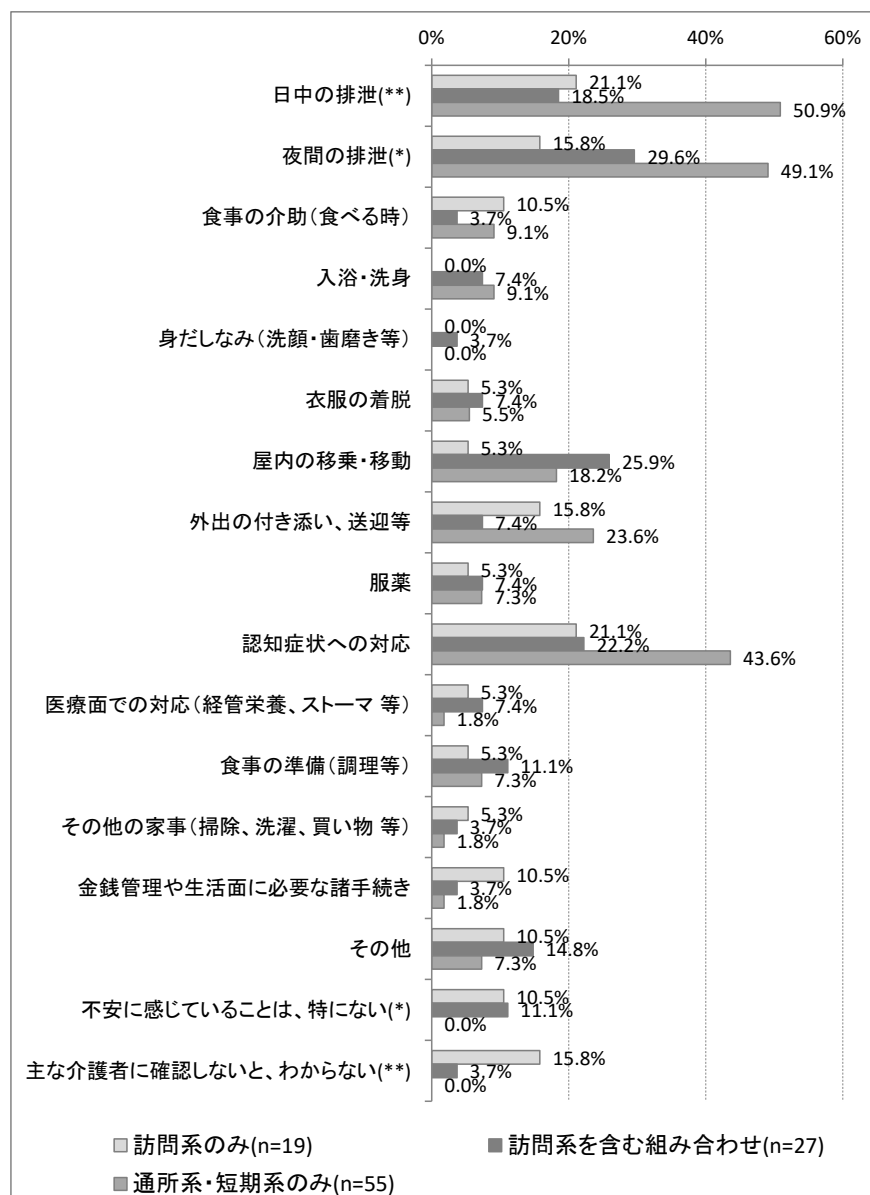
□ 家族等による介護の頻度は、「ほぼ毎日」（57.1%）が最も高くなっています。

在宅介護での不安要因

要介護度別



サービス利用別



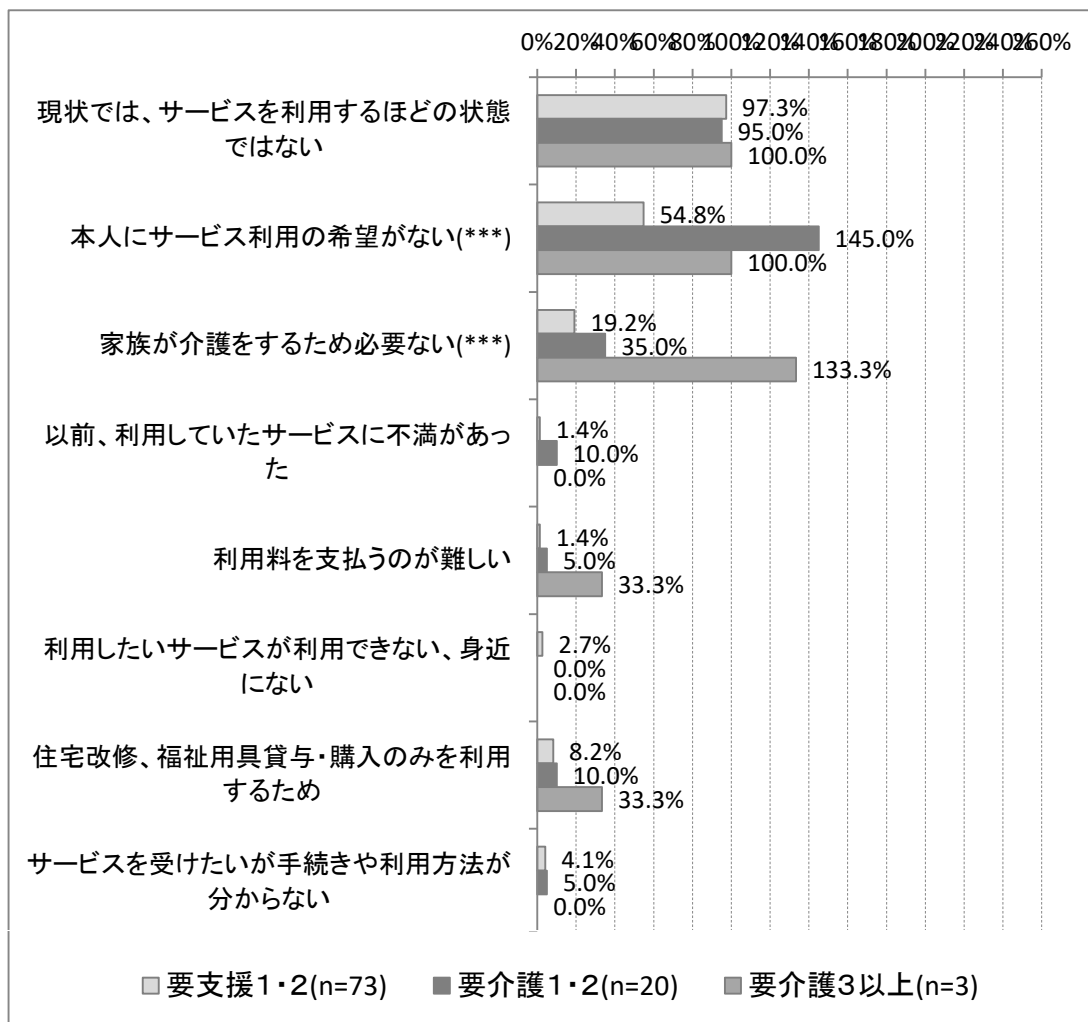
□ 在宅介護での不安要因は、「日中の排泄」「夜間の排泄」が要介護度が上がるにつれて高くなっています。

□ また、「認知症状への対応」も、要支援と要介護では大きな開きが見られます。

□ 「日中の排泄」「夜間の排泄」「認知症状への対応」は、「通所系・短期系のみ」で高くなっています。

サービス未利用の理由

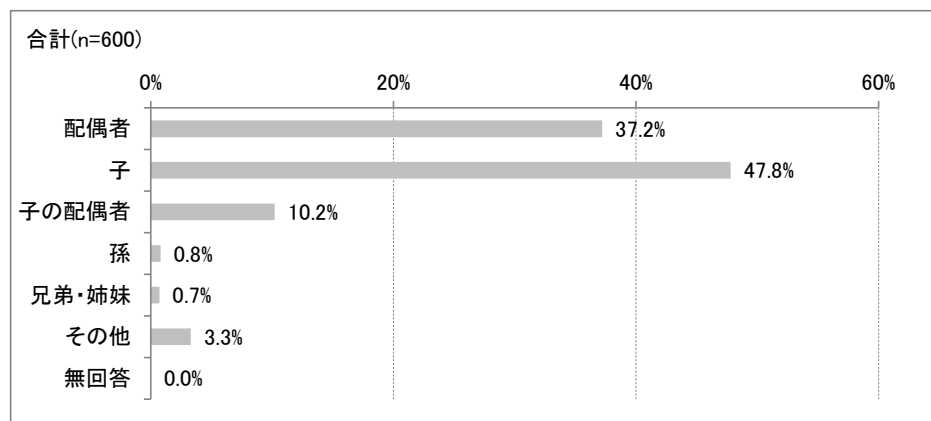
要介護度別



□ 「要介護3以上」のサービス未利用の理由としては、「家族が介護するため必要ない」(133.3%)が高くなっています。介護の負担が家族のみで肩代わりされている状況です。

介護者の個人属性（在宅介護実態調査）

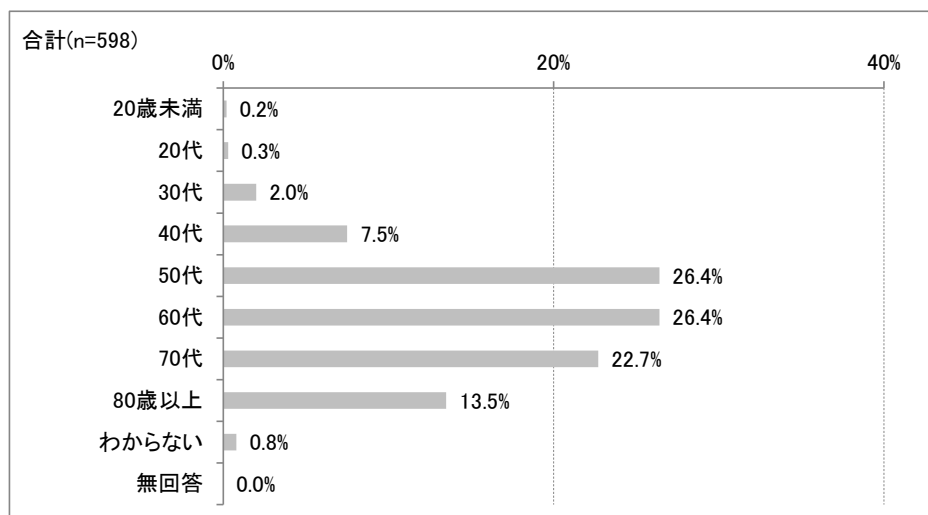
主な介護者の本人との関係



□ 介護者の個人属性をみると、「子」（47.8%）が最も高く、これに「配偶者」（37.2%）が続いています。

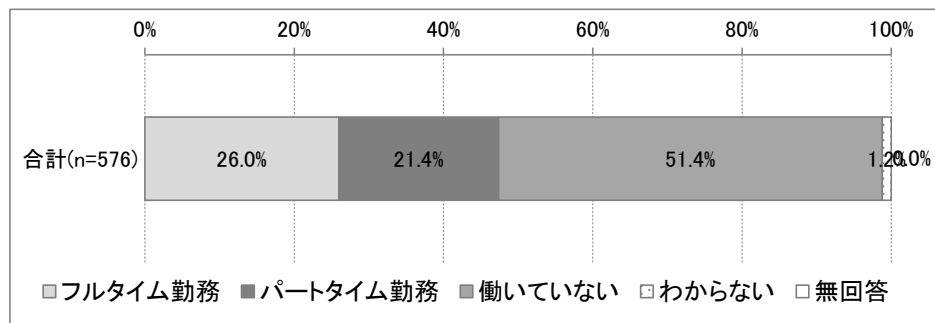
□ 年齢をみると、「50代」（26.4%）、「60代」（26.4%）で同率首位となっています。これに「70代」（22.7%）、「80歳以上」（13.5%）が続いており、介護者の高齢化が進んでいます。

介護者の年齢別割合



介護者の就労について

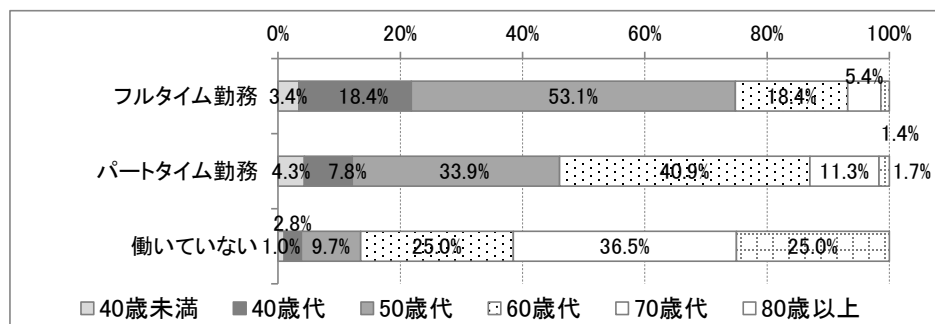
介護者の就労状況



□ 就労状況をみると、「働いていない」(51.4%)が最も高く、これに「フルタイム勤務」(26.0%)、「パートタイム勤務」(21.4%)が続いています。

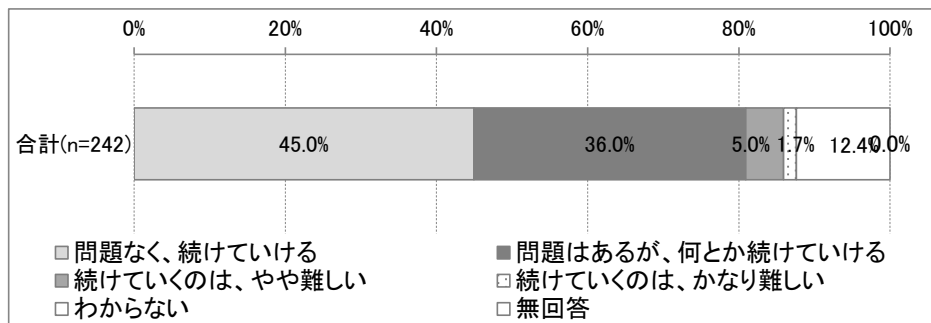
□ 就労状況別に年齢層をみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」(53.1%)が、「パートタイム勤務」では「60歳代」(40.9%)が、「働いていない」では「70歳代」(36.5%)が最も高くなっています。

就労状況別・主な介護者の年齢

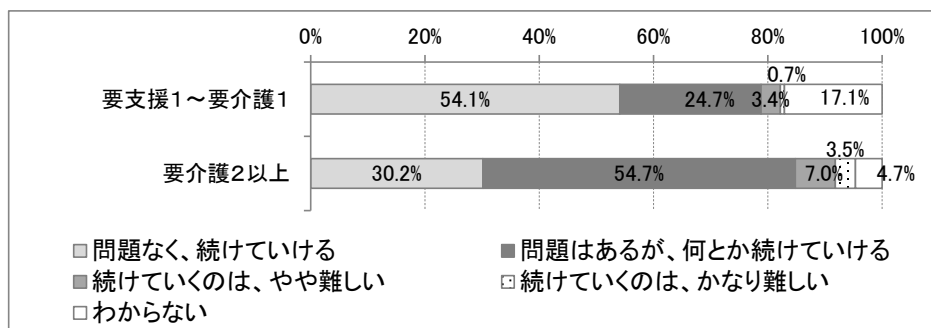


就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)

全体



要介護度別

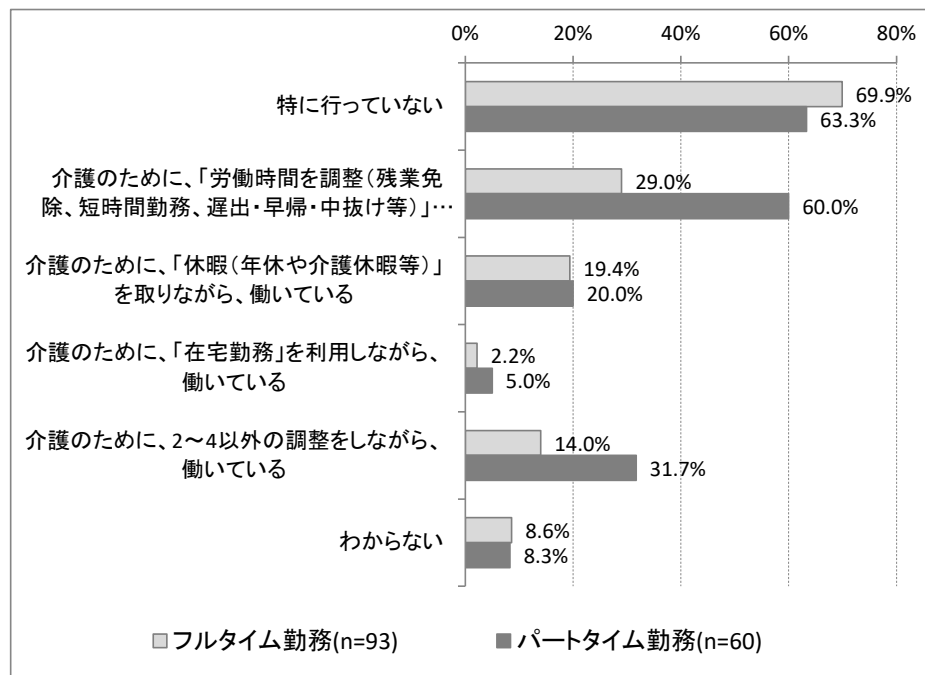


□ 今後就労継続が可能かどうか尋ねると、「問題なく、続けていける」(45.0%)が最も高く、これに「問題はあるが、何とか続けていける」(36.0%)が続いています。

□ 要介護度別でみると、「問題なく、続けていける」の割合は、要介護1以下だと54.1%ですが、要介護2以上だと30.2%に落ち込みます。

介護のための働き方の調整

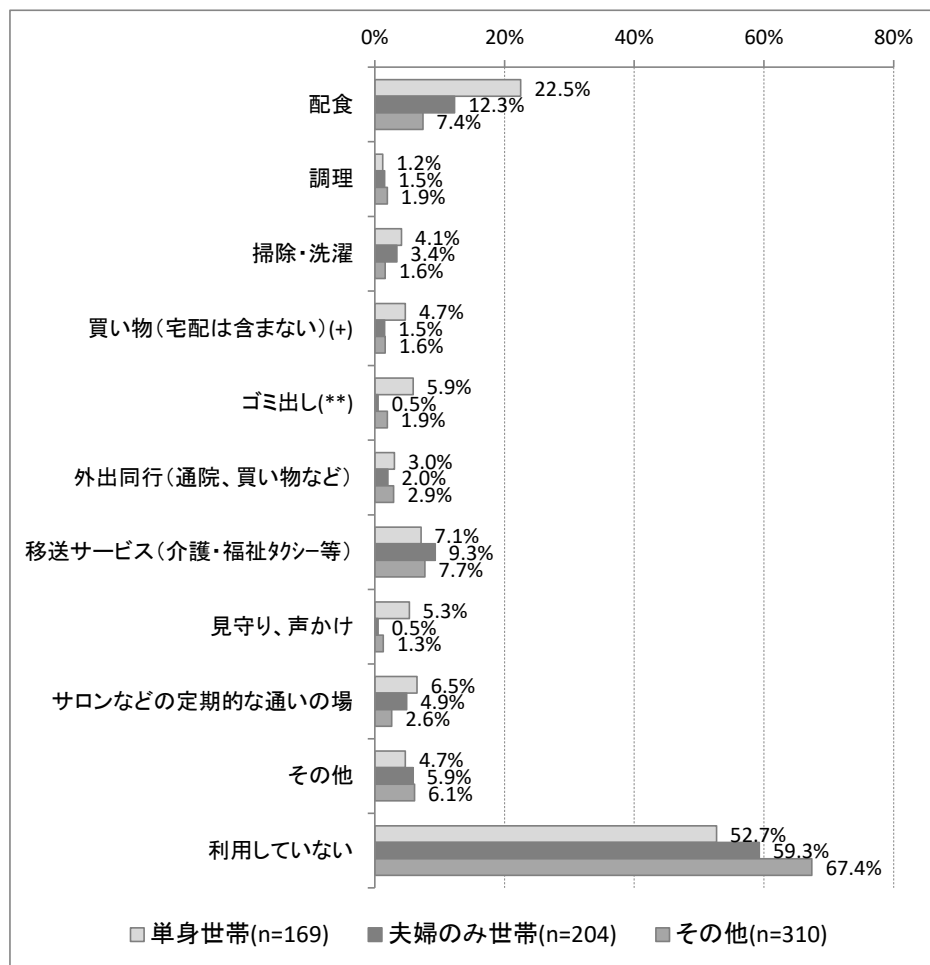
就労状況別



□ 「介護のために「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出、早帰、中抜け等)」は「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」では、大きな開きがあります。

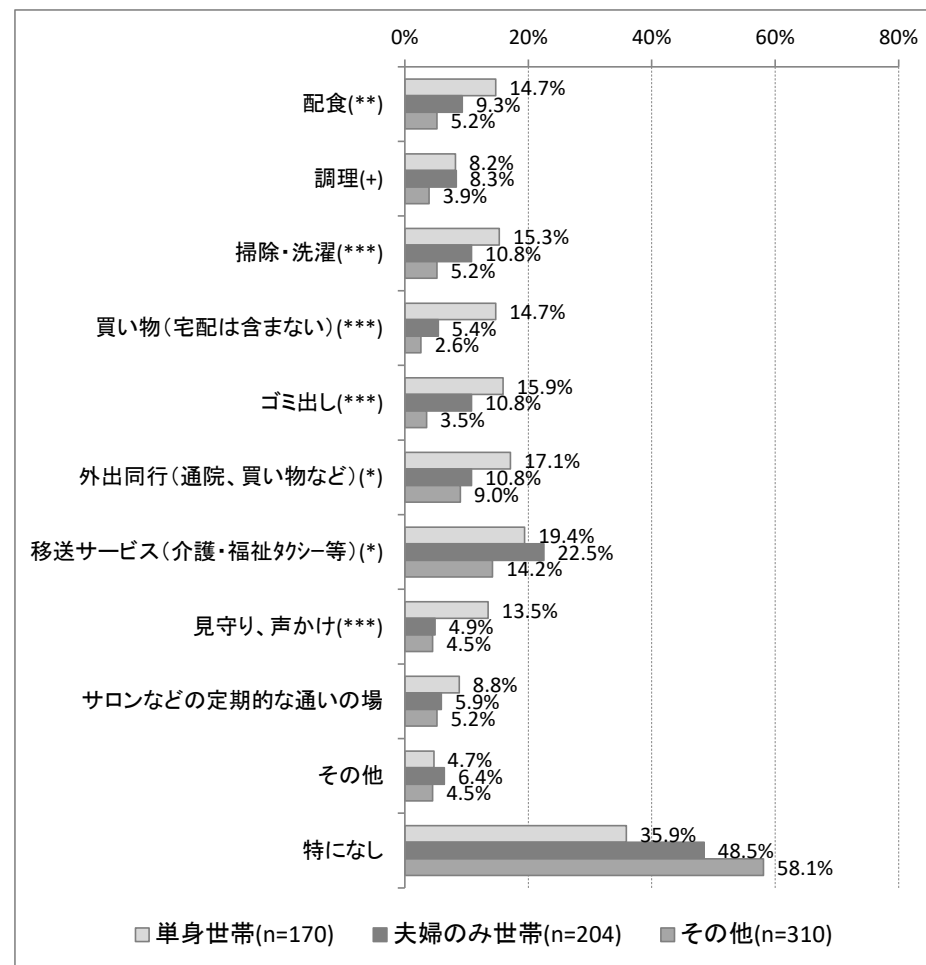
保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

世帯類型別保険外の支援・サービスの利用状況



□ 「単身世帯」では「配食」の割合が、他の世帯類型よりも高くなっています。

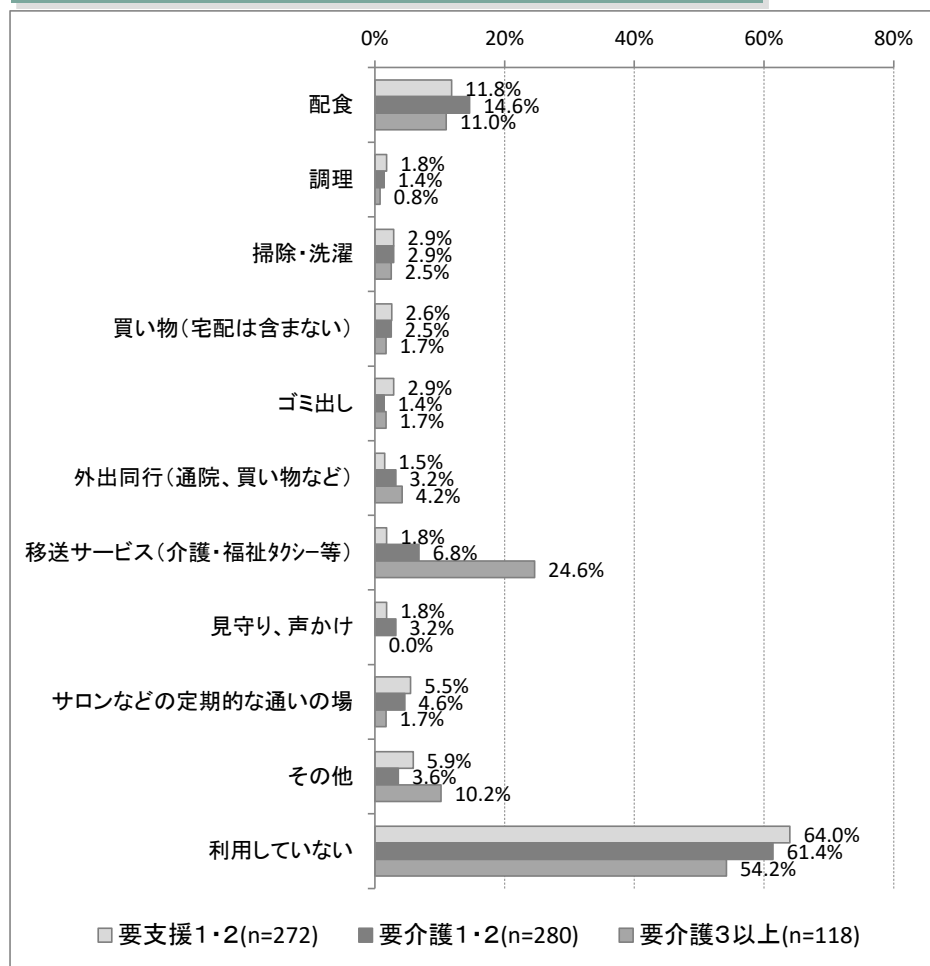
世帯類型別在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



□ どの世帯類型でも、「移送サービス」の割合が、高くなっています。

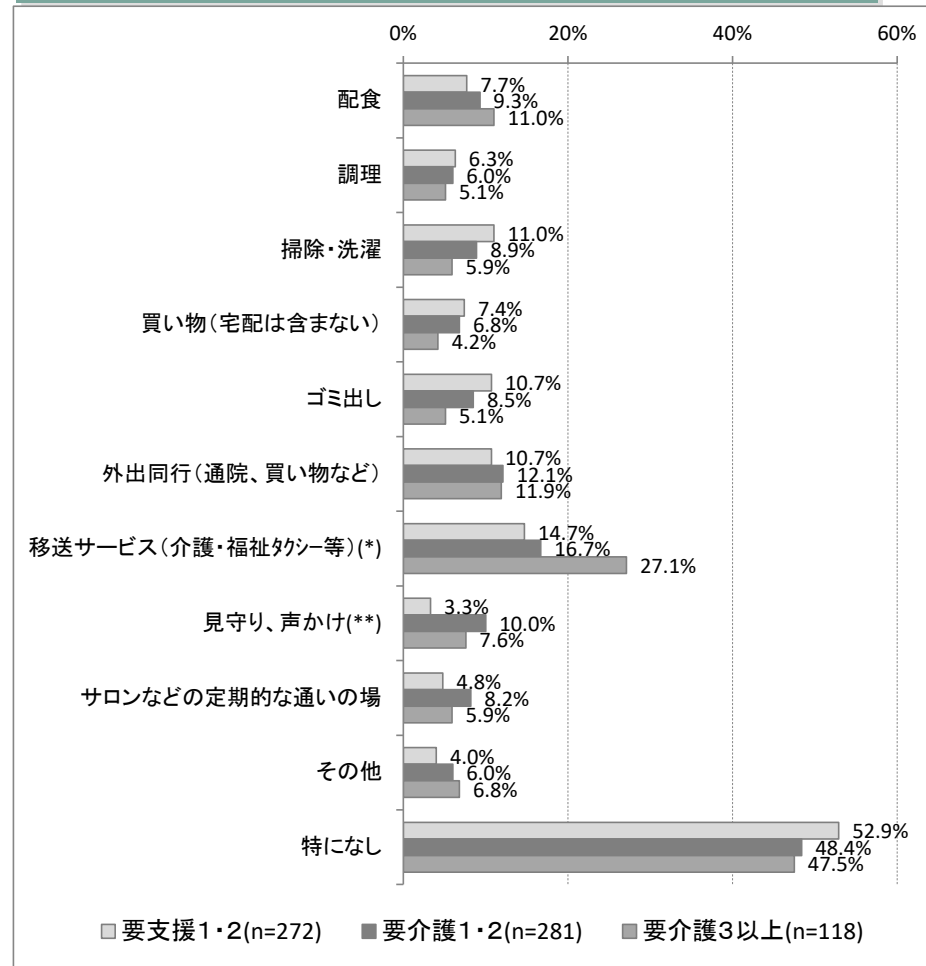
保険外の支援・サービスの利用状況

要介護度別保険外の支援・サービスの利用状況



□ 「要介護3以上」では「移送サービス」の割合が、他の介護度よりも高くなっています。

要介護度別在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



□ どの介護度でも、「移送サービス」の割合が高く、特に「要介護3以上」は高くなっています。